

【異学年交流に基づく豊かな心の育成について】

大泉桜学園では、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成を目指し、教育目標を「桜学精神」と定め、9年間を見通した教育活動の充実を図っています。

特に、体験活動や異年齢集団による活動を重視しています。入学式、卒業式、運動会、桜祭（音楽会）、校外学習など、多くの教育活動において異なる学年の児童・生徒が共に活動する機会を設け、主体的に取り組むことによって、児童・生徒のキャリア発達を促しています。

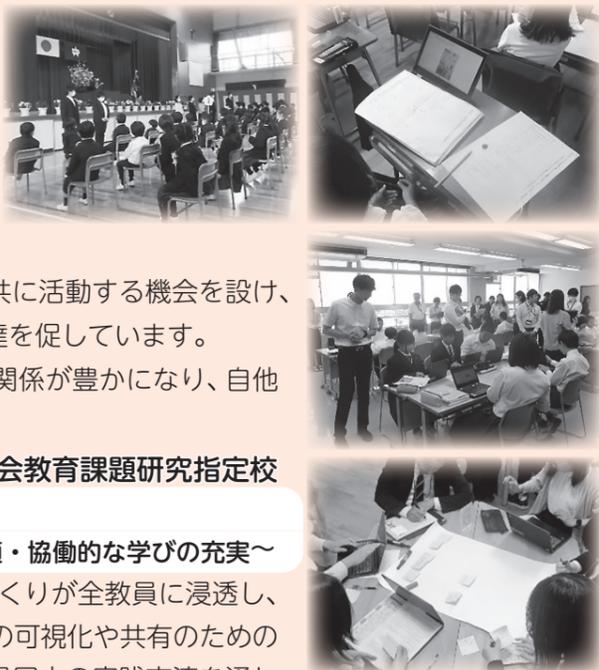
こうした環境は和やかな校風を生み、児童・生徒の人間関係が豊かになり、自他を大切にす豊かな心の育成につながっています。

【校内研究について】 令和7・8年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校

＜研究主題＞ ICTを活用した情報活用能力の育成

～小中一貫教育校の連続性を生かした個別最適・協働的な学びの充実～

今年度の研究では、情報活用能力の育成に向けた授業づくりが全教員に浸透し、子供主体の学びを意識した授業設計が進展しました。思考の可視化や共有のためのツールとしてICTの活用も図られてきました。また、教員同士の実践交流を通して、授業デザインの多様化が見られています。さらに、OJT研修と連携したICTスキルの向上により、児童・生徒のタイピング技能やアプリ活用など、基本操作技能の定着も見られています。一方で、ICTの活用自体を目的とってしまう場面や、学びを深めるための教師の支援の質には、課題が残されています。今後は情報活用能力の育成に向けた「桜学園モデル」の確立を進め、ICTをツールとしながら、学びの質を高める授業を追求します。最終的には、小中一貫教育の特性を生かし、9年間を通じた体系的な情報活用能力の育成を目指します。



小中一貫教育
に関する
Q&A

Q1 小中一貫教育を実践している小学校に入学すると、小中一貫教育グループの中学校に進学しなければならないのですか。

A1 通学区の指定や学校選択制の利用により、小中一貫教育グループ以外の中学校にも進学することができます。

Q3 1つの小学校からいろいろな中学校へ進学する状況で、どのように小中一貫教育に取り組むのですか。

A3 中学校1校と近隣の小学校1～3校で取組を進めています。各グループが実態に応じて「目指す15歳の姿」を設定し、その実現に向けた教育活動を行っています。また、知的障害特別支援学級では、設置校を4グループに分けて研究や実践をしています。

Q4 中学校へ進学する際に、同じ小中一貫教育グループの小学校から進学する児童と違うグループの小学校から進学する児童がいると、学習状況に差が生じてしまうのでしょうか。

A4 各小学校の状況に応じた取組が行われますが、学習指導要領に準拠して小中一貫教育を進めますので、学習内容や進度に差は生じません。

Q2 どの小中一貫教育グループでも同じような小中一貫教育を行うのでしょうか。

A2 それぞれの小中一貫教育グループが、中学校区の特徴や実態、課題を踏まえた学習指導の改善や生活指導の充実を図っており、全てのグループが同じ取組を行っているわけではありません。

Q5 大泉桜学園の他に、練馬区で小中一貫教育校はありますか。

A5 令和8年4月に、練馬区で2校目となる練馬区立小中一貫教育校 みらい青空学園が開校します。

令和7年度 **ねりまの**

小中一貫教育



令和8年4月 小中一貫教育校 みらい青空学園 開校

連携指導による

豊かな人間性・
社会性の育成

滑らかな接続による

安定した
学校生活

授業改善による

学力・体力
の向上

目指す**15歳の姿**

練馬区の小中一貫教育校、全小・中学校では、小中一貫教育グループごとに「目指す15歳の姿」を設定し、小中一貫教育の充実に努めています。

今年度は、9年間の教育活動を系統的に整理した「小中一貫教育の取組プログラム」の実践を通して、意図的・計画的な指導の充実を図っています。

小中一貫教育グループの取組事例

小・中学校教員の連携による
指導方法の工夫・改善

大泉第二中学校グループ (大泉第二中・大泉第二小・大泉南小)

【目指す15歳の姿】

- 「社会で通用する基礎的な力を身に付け、社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。

●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●※一部抜粋

[柱]となるテーマ		[情報活用能力] 育成に向けた取組
中学校	第3学年	○卒業後も学び続ける力(生涯学習)、社会で通用する学びの力を身に付ける。
	第2学年	○広く社会に情報発信したり受信したりする表現力や理解力を身に付ける。
	第1学年	○小学校での学びを生かしながら、さらに幅広く自ら学ぶ力(情報収集・情報整理の能力)を身に付ける。
小学校	第5、6学年	○目的に応じて情報を選択し、調査や資料を組み合わせながら情報を収集したり、整理したりする力を身に付ける。 ○相手や目的、意図に応じて、表現方法を工夫しながら効果的に表現する力を身に付ける。
	第3、4学年	○調査や資料から情報を収集したり、必要な情報を整理したりする力を身に付ける。 ○相手や目的に応じて表現方法を選択し、分かりやすく表現する力を身に付ける。
	第1、2学年	○身近な課題に対する情報を収集したり、整理したりする力を身に付ける。 ○相手に対して、分かりやすく表現する力を身に付ける。

小学校での研究授業の実施に向けて、小中合同で国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、体育・保健体育、音楽・図工・美術・技術・家庭、養護・栄養の8分科会に分かれ、学習指導案の検討を行いました。

研究授業では、小学校と中学校の学習のつながりを意識した授業展開を図ることができました。

特に中学1年生に対しては、小学校での指導法を参考にしながら、少しずつ中学校らしい指導法へ移行する必要があることを再認識しました。例えば、算数から数学への移行では、単元の導入において計算の基礎を丁寧に確認しつつ、論理的な思考を促す課題を取り入れる工夫を行いました。

また、中学校教員による小学校での出前授業では、小学生が中学校の学習内容に触れる貴重な機会となりました。授業後の感想では、「中学校の勉強が楽しみになった」「もっと難しい問題に挑戦したい」という声が多く聞かれ、学習意欲の高まりが見られました。



小中合同授業を活用した
自らの生き方を考える取組

豊玉第二中学校グループ (豊玉第二中・豊玉第二小・豊玉東小)

【目指す15歳の姿】

- コミュニケーション能力を高め、主体的に自らの生き方について考え、社会に貢献することができる生徒

●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●※一部抜粋

[柱]となるテーマ		自らの生き方を考える力の育成
中学校	第1～3学年	○主体的に自分の進路を選択し、「自分探し」を実現することができる。
	第5、6学年	○自分の将来に関心を持ち、全体を考えて行動することができる。
小学校	第3、4学年	○自分の得意なことを頑張り、めあてを決めて自分でやり抜くことができる。
	第1、2学年	○自分のよさに気付き、友人のために手伝いや仕事をすすんで行うことができる。



自らの生き方を考える力の育成を掲げ、小学校段階から9年間、系統的な学習活動を行っています。

小学校低学年では、学級活動を中心に、小学校中高学年では、学級活動に加え、総合的な学習の時間を生かしながら、自分のことを知ること、他者のために何が出来るか考え行動すること等を学んでいます。中学校段階では、小学校段階で築いた土台を生かしながら、将来の自分の進路を見据えた職業体験や上級学校調べ等に取り組んでいます。6年生と中学生が合同授業を行う中で、主体的に自らの生き方について考える場面が見られました。

9年間を見通した
系統的な話し合い活動の取組

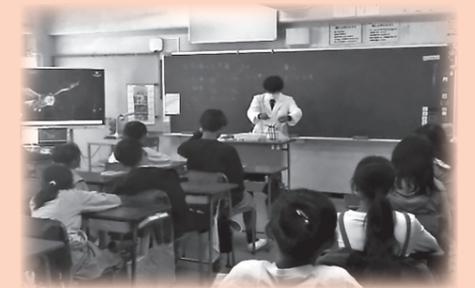
大泉学園中学校グループ (大泉学園中・大泉学園小・大泉学園緑小)

【目指す15歳の姿】

- 基礎的な学力を身に付け、思いを適切な言葉で伝える生徒
- 周りとは協力しながら粘り強く物事に取り組み、自信をもって進路を開拓する生徒
- 基礎的な体力を身に付け、自らの健康と安全について考え、行動する生徒

小中学校の教員による話し合いの中で、児童・生徒の「伝える力」に課題があり、自分の考えを発言する児童・生徒が減少していることが分かりました。授業のどの場面で話し合い活動を取り入れたらよいかを話し合い、実践しました。

特に、学級全体で発言する場も大切にしながら、ペアやグループで対話する時間を増やすことで、自主的・意欲的に話し合える児童・生徒の姿が増えました。



●●● 小中一貫教育の取組プログラム ●●●※一部抜粋

[柱]となるテーマ		[伝える力] 育成に向けた取組
中学校	第2、3学年	○毎時間の話し合い活動 ○他者に説明する場面の設定 ○ICT機器の活用
	第1学年	○他者理解、話せる環境づくり
小学校	第5、6学年	○表現の幅を広げる話型の活用 ○発表を積み重ね、伝える力につなげる。
	第3、4学年	○話型の活用 ○辞書や掲示物などを活用 ○スピーチと感想文の作成
	第1、2学年	○毎日の発表(スピーチ) ○共感する言葉の日常化 ○互いの話を聞く場の設定